1: 【The Black Note】第8話 迷う夢の悪夢

٠.	■プレ・本編
4:	□シーン・マリス召喚(リバープあり)
5:	・大聖堂の奥まった儀式の間にて。神聖な雰囲気がする。
6:	・部屋の床には一面に巨大な魔法陣が描かれている。
7:	SE:レルシア歩く。
8:	32 7 2 7 2 7 3 7 3
9:	レルシア「親愛なる光の瞳よ。わたしの前にココロを示せ」
	レルン) 祝友なる儿の埋よ。 わたしの前にココロで小と」
10:	
11:	SE:呪文詠唱と同時に、そよ風。
12:	SE:フォオオオオオ?
13:	
14:	レルシア「光の司祭の名において、古(いにしえ)に共に歩んだはらからなる世への扉を開けた
15:	もう。星霜の彼方より語られし、あまたの世の架け橋を閉ざしたる者に告げる。わた
16:	しは解錠を望むものなり。描かれし眼の向こうに在りしもの、サライよ。はらからな
17:	る世に通ずる架け橋を開放し、その証を示せ。かつての同胞、翼をもちし天の使い天空に
18:	住まう異界の世。開放を望むは天使の血族レルシア——、レルシア・ホルスト」
19:	EGG 2505 SEC NUMBER CE COOKE SEEMS 2005
	SE:神聖な雰囲気を示す音。
20:	SE:光柱を表す音。
21:	50. 儿性で衣り目。
22:	
23:	レルシア「さあ、こちら側にいらしてください。心配には及びません。あなたに危害を
24:	加える者は誰もいません」
25:	
26:	SE:カツンと足音。
26: 27:	SE: カツンと定音。
27:	SE: カツンと定音。 レルシア「あなたのお名前は?」
27:	レルシア「あなたのお名前は?」
27: 28:	レルシア「あなたのお名前は?」
27: 28: 29: 30:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。——黒炎(こくえん)のマリス」
27: 28: 29: 30: 31:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。——黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング
27: 28: 29: 30: 31: 32:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。——黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。——黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の 精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。──黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の 精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表 に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。——黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の 精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36:	レルシア「あなたのお名前は?」マリス「マリス。──黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実──」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 37:	レルシア「あなたのお名前は?」マリス「マリス。──黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実──」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 37:	レルシア「あなたのお名前は?」マリス「マリス。──黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実──」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 37:	レルシア「あなたのお名前は?」マリス「マリス。──黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実──」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 37: 38: 39:	レルシア「あなたのお名前は?」マリス「マリス。──黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実──」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 37: 38: 39: 40:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。 ——黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実――」 ■タイトルコール デュレ「The Black Note 第8話 迷う夢の悪夢」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 37: 38: 39: 40:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。 — 一黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実――」 ■タイトルコール デュレ「The Black Note 第8話 迷う夢の悪夢」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 37: 40: 41: 42:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。 — 一黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実――」 ■タイトルコール デュレ「The Black Note 第8話 迷う夢の悪夢」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 40: 41: 42: 43:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。 — 一黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実 — 」 ■タイトルコール デュレ「The Black Note 第8話 迷う夢の悪夢」 ■本編 □シーン・過去・迷夢とマリスと。
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 35: 36: 37: 38: 40: 41: 42: 43: 44:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。 ——黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実――」 ■タイトルコール デュレ「The Black Note 第8話 迷う夢の悪夢」 ■本編 □シーン・過去・迷夢とマリスと。 レイヴン「ふむ。思っていたよりも、可愛いな。どう思う? マリス」 マリス「そうだな。フェンリルの子どもと聞いていたから、もっと貫録があると想像していたの
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 40: 42: 43: 44: 45:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。 — 一黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の 精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表 に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの 真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実――」 ■タイトルコール デュレ「The Black Note 第8話 迷う夢の悪夢」 ■本編 □シーン・過去・迷夢とマリスと。 レイヴン「ふむ。思っていたよりも、可愛いな。どう思う? マリス」 マリス「そうだな。フェンリルの子どもと聞いていたから、もっと貫録があると想像していたの だが、フツーのオオカミと言うか、子犬にしか見えない」
27: 28: 29: 30: 31: 32: 33: 34: 35: 36: 40: 42: 43: 44: 45:	レルシア「あなたのお名前は?」 マリス「マリス。 ——黒炎(こくえん)のマリス」 ■オープニング セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実――」 ■タイトルコール デュレ「The Black Note 第8話 迷う夢の悪夢」 ■本編 □シーン・過去・迷夢とマリスと。 レイヴン「ふむ。思っていたよりも、可愛いな。どう思う? マリス」 マリス「そうだな。フェンリルの子どもと聞いていたから、もっと貫録があると想像していたの

11.01.13 TBN08.rtf

47:	迷夢「キミがどう言っても、可愛い子ワンコちゃんよねぇ。で、この大雪を降らせたのはやっぱ
48:	り、この幼気なシリアくんなのかな?」
49:	シリア「オレじゃない」(ぶつぶつ、あとのゼフィのセリフと重なって
50:	ゼフィ「シリアは体調が悪いと魔力が暴走するんです。暴走の結果は大きな氷塊が空から轟
51:	音を立てて落ちてくるか、大雪になる場合が多いですね」
52:	迷夢「じゃあ、今度は大雪ですんだから、かなり平和的だったってこと?」
53:	ゼフィ「そうともいえますね」(シリアのセリフと重なります
54:	シリア「それはどういう意味だよ? 迷夢?くしゃみ、するぞ」
55:	迷夢「どうぞ。お好きなように♪」
56:	シリア「――はくしょんっ!」
57:	迷夢「。やってくれますね。シリアくんっ!」
58:	ゼフィ「シリア! そんな、お行儀の悪いことをしてはいけません」
59:	シリア「お行儀、悪くない。だって、迷夢がオレのこと、いじめるんだもの」
60:	久須那「? 何をやっているのだ。お前たちは?」
61:	迷夢「何をやってるって程のこともやってないんだけど、珍しいものをみんなで愛でてるだけ。
62:	だぁって、シリアくんてば可愛いんだよぉ♪」
63:	シリア「オレ、そんなに珍しい変なもんじゃない」
64:	迷夢「悪い意味で言ってるんじゃないよ。北リテールの精霊王さまのご子息に会えるなんて思っ
65:	てなかったから、そう言う意味で"珍しい"ってことね」
66:	シリア「何か、いいようにあしらわれてるだけのような気がするけど」
67:	迷夢「考えすぎだって、今度はくしゃみしないでよ」
68:	シリア「ゼフィ。迷夢に何とか言ってやってよぉ?」
69:	ゼフィ「コメントのしようがありません――」
70:	シリア「そんなぁ。オレ、何にも悪いことしてないのにどうしてこんな目に!」
71:	
72:	□シーン・現代に戻って、バッシュの家。
73:	・しばらく沈黙。
74:	SE:時計のコチコチ音、指で机を叩く音、などなど
75:	
76:	シリア「と言うのがオレとあいつらとの出会いだったな。最悪な思い出だ」
77:	デュレ「確かによい思い出とは言えないでしょうけど、リボンちゃんの話からしても悪意があっ
78:	たとは思えないですよ」
79:	シリア「ああ、悪意はなかったろうさ。だからこそ――」
80:	セレス「あのさぁ? 話の腰を折って悪いんだけど、レイヴンが居て、マリスが居るってこ
81:	とまではもう確認済みだけど、その迷夢とかいうのは初耳のような気がするんだけど?」
82:	シリア「いいとこに気が付いたな」
83:	デュレ「わたしたちはまだ会っていませんよね?」
84:	シリア「会っていない。でも、もうすぐ、会えるような気がするよ。そして、迷夢はとにかく、
85:	計略を巡らせるのが誰よりもうまく、綿密だった」
86:	セレス「迷夢ってそんなに頭がいいの?」
87:	シリア「覚えてる限りでは、とかく、頭の回転が速いな。切れるって言うのかな。その瞬間、瞬

- 87: 間で最適の判断を迷いなく瞬時に下していく。つまり、オレたちで言うところのデュレっ てワケだな」
- 90: デュレ「それは言い過ぎだと思います……。確かに、知識でのサポートは出来ると思うけど、実 戦となってくると……。セレスの方が……」
- 92: セレス「何だかさあ、凄い気に入らなさそう。と言うか、文句を言いたそうだね」

94:	セレス「こんなんて、どんなんよ? これでも学園を卒業してからの三年間、トレジャーハ
95:	ンティングをしつつ各地を巡り、腕を研いたんよ? 失礼なっ!」
96:	デュレ「だから、その実力は認めない訳にはいかないんで。実戦経験だけはどうがんばってもセ
97:	レスには敵わないんだから。それは頼りにしてますよ。一応——」
98:	セレス「一応?」
99:	デュレ「判りました。全幅の信頼を置いてます。こう言えば満足なんでしょ? セレスはっ」
100:	セレス「その通りなのだよ」
101:	デュレ「けど、伝説によれば、その後、天使たちのほとんどは約百年後に完成された帰還魔法で
102:	帰途についたと。そうしたら、何故封じられたマリスや久須那は別としてもレイヴン
103:	や迷夢は帰らなかったのですか――?」
104:	シリア「帰れないワケがあるのだとしたら?思えば、そこから始まったんだ。
105:	······そうだろう? <i>一</i> 一アルタ?」
106:	バッシュ「アルタ?」(ぐっとこらえて
107:	アルタ「――いつから気がついていた? シリア」
108:	シリア「最初から、ずっとだ」
109:	アルタ「では、何故、気付かない振りをしていた?」
110:	シリア「オレたちに害意はないんだろ? だったら、拒む理由もないし。お前に聞かれて困る話
111:	をしている訳でもない。としたら、追い返す理由などどこにもないだろ?」
112:	アルタ「そう思うのか?」
113:	シリア「ああ。それに。お前が見ていたのは――」
114:	アルタ「それ以上は言うなよ」
115:	シリア「言わないよ。アルタがそう願うなら。――ところで、最近、迷夢に会わなかったか?」
116:	アルタ「いいや、会ってないが、どうして、急にそんなことを?」
117:	シリア「思い出話のついでと、迷夢の黒い羽根を見つけたんだ」
118:	アルタ「迷夢がこの時代、この町にいる。なのに、どうして、お前はそんなに落ち着いていられ
119:	る? 迷夢は誰よりも危険だ」
120:	シリア「そうかもしれないが」(下の迷夢のセリフと重なる)
121:	迷夢「だぁ~れが危険だって? わたしほど、安全なやつはいないよ?」
122:	
123:	SE:キィィイイと開くドア。
124:	
	シリア「迷夢、久しぶりだな」(ちょっと驚いて
126:	迷夢「そうね、おおよそ、千年ぶりくらいかしら? シリアちゃん?」
127:	
128:	
129:	
130:	シリア「その軽い口。昔から全然変わっていないんだな」
131:	
132:	
133:	近ごろ、急にどたばたと活動を始めたのか、理由を話してくれたら助かるな?」
134:	
135:	
136:	
137:	
	精霊王さま。かつての英雄の名を継ぐもの。レルシアの子孫。エルフの子猫ちゃん、その 一、その二、おばさん一人。おまけ一」

93: デュレ「当たり前です。こんなセレスに負けてるものが一つでもあるかと思うと納得できません」

11.01.13 TBN08.rtf

139: バッシュ「お、おばさん?」

140:	レイア「おまけ?」
141:	迷夢「あ~、他意はないから細かいことを気にしないでもらえる?」
142:	デュレ「あなたは何ものですか?」
143:	迷夢「さぁてね? ふふ、そんなに睨まないでよ。照れるから。――はいはい、判ったから。怒
144:	らないでね。愛しのマリスちゃんがお目覚めだから、ついでに旧知の仲の人のところにも
145:	顔出そうかなって。だってさ、挨拶なしなんて失礼でしょおぉ? ねぇ? シリアちゃん
146:	は出世したしさ」
147:	シリア「そんなことを言いにわざわざ来たんじゃないだろ?」
148:	迷夢「まぁ、そうなんだけど、陣中見舞い。と言ったら、納得してくれるのかな?」
149:	シリア「するワケないだろ?」
150:	迷夢「だよねぇ。あたしでも納得しないから。――じゃあ、シリアちゃんが納得できるかもしれ
151:	ないことを教えてあげようか?」
152:	シリア「。おちょくるのもそのくらいにしておけよ」
153:	迷夢「はは、貫禄もでたねぇ。もう、抱っこなんか出来ないね? けど、抱き枕にならなるかな」
154:	シリア「残念だが、抱き枕は先約があるんだ。諦めてもらわなくちゃな?」
155:	迷夢「あら、残念(急に真面目に)千年前のつづきをしに来たのよ。条件は全てそろった。あと
156:	はしっかりきっちり準備をして、アクションを起こすだけなのよね。シリアちゃん、キミ
157:	は覚えてるかな?」
158:	デュレ「迷夢さん?」
159:	迷夢「なぁによ。ダークエルフの子猫ちゃん、え~と、その一」
160:	デュレ「子猫ちゃんではありません。デュレです。きちんと名前を呼ばないなんて、失礼です」
161:	迷夢「はいはい。そのデュレは異常にお堅いのね。面倒くさい。で、何?」
162:	デュレ「面倒くさいなら、単刀直入に行きます。折角、会えたのだから、聞いてみたいとさっき
163:	から思っていました。あなたは何故、自分の世界に帰らなかったのですか」
164:	迷夢「今のところ、キミに話す、義理はないなぁ。けど、どしてもってなら、あっちに帰るより
165:	こっちにいた方が楽しそうって思ったから♪ 楽しければそれでいいのよ、あたし。レイ
166:	ヴンみたいに生真面目くんとか、マリスみたいに学者肌ってワケでもないし」
167:	シリア「また、お前はそんな意味もないことをしようと考えてたのか? そのはた迷惑なと
168:	ころは昔から全然変わっていないな」
169:	迷夢「ま、ね。それがわたしの取り柄だから。楽しければ、万事オーケー!
170:	デュレ「そんなの、迷惑ですっ!」
171:	
172:	SE:テーブルをダン!
173:	
	迷夢「そお?なら、ここで終わりにしよっか?」(いたずらめかして
175:	シリア「まずい、逃げろっ!」
176:	
177:	SE:シリアがジャンプ、セレスの頭をぎゅ!
178:	
179:	セレス「ぎゃんっ!」踏むなっ、このケモノめっ!」
180:	
181:	
182:	SE::シリア、迷夢に飛びかかる音。
183:	SE:: さらにサムが剣を振って、迷夢の剣と交錯!
184:	

195: 化し、その魔力を反射する器を現せ!」 196: シリア「よせ、迷夢っ」 197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE: どっか~ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フッーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・・」 207: ブツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」 208: シェラ「そうですか?」 208: ジェラ「そうですか?」 209: 迷夢「よきがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏・のよ。そのとこは誉めてあげるね」 210: ジェラ「嬉しくありませんよ・・・・・」 211: ジェラ「嬉しくありませんよ・・・・・・・」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: SE: デュレ、 間護符掲げ。セレス、弓を引く。 216:		
187: 188: SE: 迷夢、ハイキック、シリアくんどっかに飛んでく。 189: 190: シリア「ぎゃっ」(何か、そんなような悲鳴) 191: 迷夢「目覚めよ、光の瞳。その美しき光玉の彼方よりあまたの次元を駆け抜ける真実の道しる。 を我が前に現せ!」(セリフの最後で深呼吸) 39: シェラ「間の支配者・シェラの名により命ずる。微瞳みの間に住まう小さき間の使い魔たちよ。 194: 我が命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動にはした。 化し、その魔力を反射する器を現せ!」 195: と夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: 203: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE: どっかへん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなんで、フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏である。プェレ・デュラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だるうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない。プェレ「迷夢」であうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない。プェレ「迷夢」である方ね。でも、そんなの関係ないもん。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは アニレ「そうでしたけど、その」 218: だぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは デュレ「そうでしたけど、その。 デュレ「そうでしたけど、その。 だぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは ぎょしょりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは まんいけどこ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね? セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 222: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、そのこ。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きき、よりで、鬼處が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そんじで、面通しもすん。ことだし、帰るうかしら。・次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 225: SE: 足音。迷夢退場	185:	サム「待て」
188: SE: 迷夢、ハイキック、シリアくんどっかに飛んでく。 189: 190: シリア「ぎゃっ」(何か、そんなような悲鳴) 191: 迷夢「目覚めよ、光の瞳、その奏しき光玉の彼方よりあまたの次元を駆け抜ける真実の道しる・ を我が前に現せ!」(セリフの最後で深呼吸) 192: を我が前に現せ!」(セリフの最後で深呼吸) 194: 我が命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動に? 化し、その魔力を反射する器を現せ!」 195: 化し、その魔力を反射する器を現せ!」 196: シリア「よせ、迷夢っ」 197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 199: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 199: SE: どっか~ん。玄関大破。 190: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん? フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 190: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん? フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 197: 迷夢「たろうね。でも、そんなの関係ないもん。毎年のくせに判断は早いし、動きが俊敬: のよ。そのとこは誉めてあげるね」 111: シェラ「嬉しくありませんよ」 112: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 113: デュレ「迷夢っ!」 114: SE: デュレ、間護符掲げ。セレス、弓を引く。 116: しよりもずっとざっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 117: 迷夢「おあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね? 118: はよぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねえ。そう言う判りやすい性格、大はことない。アコレ「帰るうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね。?」 1222: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねえ。そう言う判りやすい性格、大はことだし、帰るうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね。?」 1222: ※夢「ほはぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねえ。そう言う判りやすい性格、大はことだし、帰るうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね。?」 1222: SE: 足音。迷夢退場	186:	迷夢「やるね、サム。けど、そんなんじゃ終わらないよ」
188: 190: シリア「ぎゃっ」(何か、そんなような悲鳴) 191: 迷夢「目覚めよ、光の瞳。その美しき光玉の彼方よりあまたの次元を駆け抜ける真実の道しるを我が前に現せ!」(セリフの最後で深呼吸) シリテ「闇の支配者・シェラの名により命ずる。微腫みの間に住まう小さき間の使い魔たちよ。 我が命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動には少し、その魔力を反射する器を現せ!」 195: 少児「よせ、迷夢」 197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: シェラ「ミラーフレームっ」 202: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 SE: どっか〜ん。玄関大破。 205: ど夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなんで、フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・」 206: シェラ「キラですか?」 207: シェラ「キラですか?」 208: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敬である。そのとこは誉めてあげるね」 シェラ「嬉しくありませんよ・・・・・」 211: ジ妻」「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢」「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに砂殺されちゃうよ。あの人たち、あしよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 209: デュレ「そうでしたけど・・・・、その」 211: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね? セレス「ーーキミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 226: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その」。ストレートねま。そう言う判りやすい性格、大き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんことだし、帰ろうかしら。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	187:	
190: シリア「ぎゃっ」(何か、そんなような悲鳴) 191: 迷夢「目覚めよ、光の瞳。その美しき光玉の彼方よりあまたの次元を駆け抜ける真実の道しるを我が前に現せ!」(セリフの最後で深呼吸) 193: シェラ「闇の支配者・シェラの名により命ずる。微腫みの間に住まう小さき間の使い魔たちよ、我が命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動にはし、その魔力を反射する器を現せ!」シリア「よせ、迷夢っ」 196: シリア「よせ、迷夢っ」 197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: シェラ「ミラーフレームっ」 202: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE: どっか~ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」シェラ「そうですか?」 208: シェラ「そうですか?」 208: ジェラ「そうですか?」 210: ジェラ「嬉しくありませんよ・・・・」シェラ「嬉しくありませんよ・・・・」・ 211: デュレ「迷夢」・「はあっませんよ・・・・」・ 212: 迷夢「おっそ~い。そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢」・「とうると、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 214: スロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	188:	SE:迷夢、ハイキック、シリアくんどっかに飛んでく。
191: 迷夢「目覚めよ、光の瞳。その美しき光玉の彼方よりあまたの次元を駆け抜ける真実の道しるを我が前に現せ!」(セリフの最後で深呼吸) シェラ「闇の支配者・シェラの名により命ずる。微腫みの闇に住まう小さき闇の使い魔たちよれが命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動にはし、その魔力を反射する器を現せ!」 ジリア「よせ、迷夢っ」 ジ夢「開け! クラッシュアイズ」 SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: シェラ「ミラーフレームっ」 SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 SE: どっか~ん。玄関大破。 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなんフツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」 フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」 ジェラ「そうですか?」 209: 迷夢「だるうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 デュレ「迷夢っ!」 214: SE: デュレ、関膜符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそへい。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あしよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが宋た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 デュレ「そうでしたけど・・・・、その」 211: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね? セレス ーーキミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、そのニ。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大き)けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ~んじゃ、面通しもすんことだし、帰ろうかしら。・・・・・次に会う時は敵かしら、それとも・・・・・味方なのかしらね・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	189:	
192: を我が前に現せ!」(セリフの最後で深呼吸) 193: シェラ「闇の支配者・シェラの名により命ずる。微腫みの闇に住まう小さき闇の使い魔たちよ。 我が命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動に往し、その魔力を反射する器を現せ!」 196: シリア「よせ、迷夢」 197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE:光が集まるような音。そして、発射! 200: シェラ「ミラーフレームっ」 202: SE:空気を引き裂くような音。弾く音。 SE:どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」 207: フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」 208: ジェラ「そうですか?」 210: 迷夢「だろうね。 でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 211: シェラ「嬉しくありませんよ・・・・・」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 144: SE:デュレ、間護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: とよりもずっとすいと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだまって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 217: ど夢「おって、かとしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど・・・・、その」 211: 迷夢「まあ、いいけどき?マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね? 212: 迷夢「まあ、いいけどき?マリスに負けたくないただったら、もぉ~っと気張らないとね? 213: 迷夢「ははぁ。エルフの予強ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、だき♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだっとだし、帰ろうかしら。・・・・・・・次に会う時は敵かしら、それとも・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	190:	シリア「ぎゃっ」(何か、そんなような悲鳴)
193: シェラ「闇の支配者・シェラの名により命ずる。微腫みの間に住まう小さき間の使い魔たちよ。 我が命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動に生い、その魔力を反射する器を現せ!」 シリア「よせ、迷夢っ」 197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: シェラ「ミラーフレームっ」 202: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 SE: どっか〜ん。玄関大破。 204: シェラ「ミラーフレームっ」 205: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」 シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」 ジェラ「そうですか?」 209: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敬でのよ。そのとこは誉めてあげるね」 シェラ「嬉しくありませんよ・・・・・」 210: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 デュレ「迷夢っ!」 SE: デュレ、 間護符掲げ。セレス、弓を引く。 214: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに砂殺されちゃうよ。あの人たち、あったりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 ようでしたけど・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	191:	迷夢「目覚めよ、光の瞳。その美しき光玉の彼方よりあまたの次元を駆け抜ける真実の道しるべ
194: 我が命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動に生いし、その魔力を反射する器を現せ!」 991: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: 199: SE:光が集まるような音。そして、発射! 200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: 203: SE:空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE:どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなあ・・・・・」 207: フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなあ・・・・・」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏・のよ。そのとこは誉めてあげるね」 シェラ「嬉しくありませんよ・・・・・」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: SE: デュレ、間護符掲げ。セレス、弓を引く。 216:	192:	を我が前に現せ!」(セリフの最後で深呼吸)
195: 化し、その魔力を反射する器を現せ!」 196: シリア「よせ、迷夢っ」 197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE: どっか~ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フッーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・・」 207: ブツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・」 208: シェラ「そうですか?」 208: ジェラ「そうですか?」 209: 迷夢「よきがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏・のよ。そのとこは誉めてあげるね」 210: ジェラ「嬉しくありませんよ・・・・・」 211: ジェラ「嬉しくありませんよ・・・・・・・」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: SE: デュレ、 間護符掲げ。セレス、弓を引く。 216:	193:	シェラ「闇の支配者・シェラの名により命ずる。微睡みの闇に住まう小さき闇の使い魔たちよ。
196: シリア「よせ、迷夢っ」 197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE: どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ・・・・・・」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キョがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏でのよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ・・・・・」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: SE: デュレ、間護符掲げ。セレス、弓を引く。 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あこしよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 217: ご事「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 221: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大き」けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん。ことだし、帰ろうかしら。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	194:	我が命に従い、古に封じられし禁断の法力を蘇らせたまえ。天使・迷夢の魔力の波動に特
197: 迷夢「開け! クラッシュアイズ」 198: 199: SE:光が集まるような音。そして、発射! 200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: 203: SE:空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE:どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 209: 迷夢「キシがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敬・のよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だるうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: SE:デュレ、 関膜符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あけいもりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 219: だぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね? 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、そのニ。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きりけど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん。ことだし、帰るうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: SE::足音。迷夢退場 229:		-
198: 199: SE:光が集まるような音。そして、発射! 200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: 203: SE:空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE:どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キョがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敬のよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: SE:デュレ、関護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あいしよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 219: だぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね? 222: 世レス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、そのニ。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん。ことだし、帰るうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: SE::足音。迷夢退場		
199: SE: 光が集まるような音。そして、発射! 200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: 3SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE: どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏: のよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 25: SE: デュレ、鬩護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あっしょりもずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きりはど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん。ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 226: SE: 足音。迷夢退場 227: SE: 足音。迷夢退場	197:	迷夢「開け! クラッシュアイズ」
200: 201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: 203: SE:空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE:どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏のよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 37 エレ「迷夢っ!」 214: 215: SE:デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: しよりもずっとざいんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?・セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとして、帰るうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 226: SE:足音。迷夢退場 229:	198:	
201: シェラ「ミラーフレームっ」 202: 203: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE: どっか〜ん。玄関大破。 205: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏・のよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE: デュレ、間護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: しよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、そのニ。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとい、帰るうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 225: SE:: 足音。迷夢退場 229: SE:: 足音。迷夢退場	199:	SE:光が集まるような音。そして、発射!
202: 203: SE:空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE:どっか~ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなんで、フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏である。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE:デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ~い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたしよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、そのニ。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きまかけど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ~んじゃ、面通しもすんだった。 ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: SE:: 足音。迷夢退場 229:		
203: SE: 空気を引き裂くような音。弾く音。 204: SE: どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん。 207: フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏で 210: のよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたしよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?。 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、そのニ。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きまりけど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだった。 224: き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだった。 225: ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: SE:: 足音。迷夢退場 229:		シェフ「ミフーノレームっ」
204: SE: どっか〜ん。玄関大破。 205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 207: フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏がのよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: しよりもずっとないんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね? セレス「ーーキミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、そのニ。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きかけど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんまた。ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: SE: 足音。迷夢退場 229:		
205: 206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 207: フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏にのよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: とび事「おっそ~い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたしがきっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 217: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね?」 221: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとがではな。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとがでははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そうこう判りやすい性格、大きとがではいる。ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね。?」 227: 228: SE: 足音。迷夢退場 229:		
206: 迷夢「ちっ、ダメか。流石、レルシア直系の子孫だけあるよね? 咄嗟に魔法を繰り出すなん・フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏だった。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたしがもいっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 219: だあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 221: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きかけど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん。ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE: 足音。迷夢退場 229:		SE. とうがでん。公民人似。
207: フツーは出来ないよ。大抵の連中はそれで終わっちゃうんだけどなぁ」 208: ジェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏だ 210: のよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: ジェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あた しよりもずっとずっとずいんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね? セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大き は、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん。ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:		迷惑「ちっ ダメか 流石 しいシア直系の子孫だけあるよれ? 咄嗟に廢法を繰り出すなん。
208: シェラ「そうですか?」 209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏だった。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ~い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたしがっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね? セレス「ーーキョさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとは、原ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね。 ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね。?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場		
209: 迷夢「キミがここに生きていられる理由はそれよ。年寄りのくせに判断は早いし、動きが俊敏だ		
210: のよ。そのとこは誉めてあげるね」 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとは、き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだったら、 ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE: 足音。迷夢退場		
 211: シェラ「嬉しくありませんよ」 212: 迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」 213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きないでは、まりけど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだったら、い…?」 225: ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらねい…?」 227: 228: SE: 足音。迷夢退場 		
213: デュレ「迷夢っ!」 214: 215: SE: デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あった。 しよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとは、ま♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだったら、 ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらねい。?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場		
214: 215: SE:デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとは、き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだったら、 にごとだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場	212:	迷夢「だろうね。でも、そんなの関係ないもん。あたしはやりたいようにしかやらない」
215: SE:デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。 216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あたりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだあって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大きとは、き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだったら、 にごとだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:	213:	デュレ「迷夢っ!」
216: 217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あ: 218: しよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違う 219: だぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大笑 224: き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん: 225: ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね 226:?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:	214:	
217: 迷夢「おっそ〜い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あ218: しよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違うだぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ〜っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大笑224: き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすんだったら、 はいで、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:	215:	SE:デュレ、闇護符掲げ。セレス、弓を引く。
218: しよりもずっとずっと強いんだから。それにさ。あたしが来た時点で、臨戦態勢。違う だぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大笑 224: き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ~んじゃ、面通しもすん。 ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:	216:	
219: だぁって、あたしが何ものか知らなかったんでしょ? キミたちは」 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大笑 224: き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ~んじゃ、面通しもすん。 225: ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね 226:?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:	217:	迷夢「おっそ~い。そんなんじゃあ、マリスやレイヴンに秒殺されちゃうよ。あの人たち、あた
 220: デュレ「そうでしたけど、その」 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大! 224: き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ~んじゃ、面通しもすん! 225: ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 	218:	
 221: 迷夢「まあ、いいけどさ? マリスに負けたくないんだったら、もぉ~っと気張らないとね?」 222: セレス「――キミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大き 224: き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ~んじゃ、面通しもすん。ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 		
 セレス「ーーキミさ。むかつく性格してるとか言われたことない?」 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大! き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ~んじゃ、面通しもすん! ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 SE:: 足音。迷夢退場 		
223: 迷夢「ははぁ。エルフの子猫ちゃん、その二。ストレートねぇ。そう言う判りやすい性格、大! き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん! ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:		
224: き♪ けど、思慮が浅くていけないね。もっと考えなきゃ。そ〜んじゃ、面通しもすん: 225: ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね 226:?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:		
225: ことだし、帰ろうかしら。次に会う時は敵かしら、それとも味方なのかしらね 226: ?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229:		
226: ······?」 227: 228: SE:: 足音。迷夢退場 229: ······?」		
227: 228: SE::足音。迷夢退場 229:		
228: SE: 足音。迷夢退場 229:		1
229:		SE·· 足音 深萬很慢
		セレス「ねぇ、あれって何なの?」

11.01.13 TBN08.rtf

231:	シリア「あれが迷夢だ。掴み所がなくて、飄々としてるというか。ふわふわしてるというか。
232:	説明できない、あんなの」
233:	サム「追わなくていいのか?」
234:	シリア「追う必要はないよ。少なくとも敵じゃないんだよ、迷夢は」
235:	デュレ「でも、どうして、迷夢さんはわざわざここに来る必要があったのですか?」
236:	シリア「そんなの迷夢に直接、聞けば良かっただろう? ――あいつは少なからずマリスやレイ
237:	ヴンと絡んでるんだ。ただ、目的が違うんだよ。あいつの場合」
238:	セレス「楽しけりゃいいって?」
239:	シリア「違う。迷夢にはあいつだけの目的があるんだよ。迷夢だけの」
240:	
241:	
242:	□シーン・過去・マリスの部屋。
243:	SE:ドアをノック、そして開く。
244:	SE:足音。
245:	
246:	迷夢「ねぇ、マリス。今、いいかな?」
247:	マリス「良くなくても、割り込んでくるつもりなんでしょう?」
248:	迷夢「ほぉ~♪ わたしの性格をよく捉えていること、マリス嬢は。こういう人はマリスくらい
249:	しかいないよね。みぃ~んな、わたしのこと、理解不能だって言うだけど、マリスは違う
250:	∅?」
251:	
252:	SE: :足音
253:	SE:合間を縫って、ペンを走らせるような音。
254:	
255:	マリス「表情がコロコロ変わるだけに、かえって、判りやすいような気がする」
256:	迷夢「そお? あたし、こう見えても演技派なのよ? どんな奴もあたしの演技は見破れない」
257:	マリス「こともないと思う」
258:	迷夢「つれないねぇ、マリスも。そんなんじゃ、レイヴンに嫌われちゃうぞ♪」
259:	マリス「軽口をたたきに来たのか? ——他に用事があるから来たんでしょ?」
260:	迷夢「あ~そうそう。スッカリ忘れてた。ねぇ、いつやるの?」
261:	マリス「何をだ? わたしは何もしていないぞ」
262:	迷夢「う~ん。それはちょっと違うなぁ? マリスってさ、学者肌のくせして、影でこそこそす
263:	るの上手いよね?」
264:	マリス「誉めてる? けなしてる?」
265:	迷夢「う~ん、どっちでも。けど、そう言うってことはやってるのね。結局」
266:	マリス「まあ、そう言うことになるのか」
267:	
268:	SE:ペンがインク瓶に飛び込む音。リボンを付けて、差し出す音。
269:	
270:	迷夢「あたし?」
271:	マリス「そう、あたし。その書状を久須那に届けて。折角、来たんだから、お使いを頼むよ」
272:	迷夢「ほぉ~♪ ここじゃあ、あたしが先輩なのに使い走りをさせるなんていい度胸」
273:	マリス「わたしと迷夢の仲でしょう?」
274:	迷夢「しょうがないなぁ、もう。今回だけだからね? マリス。で、何が書いてあるの?」
075.	フリフ「浮夢の用」を通りのスト、一度、力須那に関いてストスト用」で、

276: 迷夢「――黙ってやっちゃえば?」

277:	マリス「そうもいかないだろう? スケールを大きくしたら、多少の危険も伴うし、久須那とは
278:	ずっと仲良くしていたいから」
279:	迷夢「ま、そうだよねぇ。じゃ、任せておいて。どんな難題でも久須那を説得してみせるから!
280:	マリス「――迷夢でもそう簡単にはいかないと思うけどな」
281:	迷夢「そんなのやってみなきゃ判らないじゃん?」
282:	
283:	SE:迷夢が部屋を出て行く音。
284:	
285:	マリス「久須那――」
286:	
287:	SE: さらにに足音。
288:	SE:中庭の噴水の音。
289:	
290:	迷夢「あたしはマリスのようにはならない。それよりもこの世界とあたしたちの世界の
291:	崩れかけた境界を何とかしないと、手遅れになる」
292:	
293:	SE:ドアをノック。
294:	
295:	迷夢「久須那、いる? マリスちゃんからお手紙を預かってきたよ」
296:	久須那「迷夢か? 今、開けるから、ちょっと待て」
297:	
298:	SE:駆け足。ドアを開ける音。
299:	
300:	久須那「こんな時間に珍しいな、迷夢?」
301:	迷夢「ははっ。たまにゃぁね。久須那とお茶でもしようかと思って。時間を合わせてきたんだ。
302:	――と言いたいけど、偶然かしらね。あ~。ゼフィに何だかって言う珍しいお茶っ葉をも
303:	らったから、それもついでに――、って、話をそらさないでよ」
304:	久須那「勝手にそれていったのは迷夢だろ?」
305:	迷夢「そうだっけ? じゃ、話を元に戻して、マリスから手紙を預かったのね。ね、立ち話も何
306:	だから座ろう? で、これがゼフィからもらったお茶なんだけど」
307:	
308:	SE:手紙とお茶を差し出す音。
309:	
310:	迷夢「でね、本題はまずこれを読んでからって、お茶はいれてくれないの?」
311:	久須那「お茶? ああ、お茶も用意するよ」
312:	
313:	SE:お茶の準備。手紙を開く音。
314:	
315:	久須那「久須那へ。天使たちの地位向上を目指して、か。天使の世界との交流を深
316:	めるためにこちら側の世界との境界面を恒常的に解き放つ提案――。そのエネルギー源と
317:	
318:	-
319:	of the part of
320:	
	迷夢「ねぇ、久須那。――あっちでポットが呼んでるんだけど、お茶、まだかな」
322:	

11.01.13 TBN08.rtf

23:	SE: 久須那歩く。再び、お茶準備。
24:	久須那「――迷夢、お茶が入ったぞ。マリスのことは、後でマリスに直接聞いてみるとして、た
25: 26:	the state of the s
	迷夢「あやや、あたしは何も企んでないよ。マリスちゃんの書状を届けに来ただけ」
	久須那「誰にも見つからないようにしてるつもりだろうけど、わたしには判る」
	迷夢「な、何の話かしら?」
	久須那「とぼけるな」
	迷夢「ははぁ♪ さては、ゼフィか。あの娘、洞察力に優れているし、勘が鋭いもんね。ばれな
32:	いようにすっごく気を使ってたんだけどな。流石は精霊王さまの右腕。そう思うと、シリ
33:	アくんはまだまだへボねぇ。全然、気が付いていないよ」
34:	久須那「その話はまた今度でいい」
35:	迷夢「まあ、そうだね。けど、あたし、悪さはしていないよ?」
36:	久須那「まだ。の間違いだろ?シメオンに魔力を封じ込める特殊なフィールドを形成
37:	しているそうだが、何のためだマリスと同じか?」
38:	迷夢「まずはノーコメント。けど、久須那の迷惑になるようなことはしていないつもりなんだけ
39:	どなぁあ? むしろ、久須那のためにもなるかなって、それでもダメ?」
40:	久須那「ダメだ。わたしが『何も知りませんでした』ではすまされないだろう?」
	迷夢「そりゃ、そ、だわね。けど、あたし、久須那の敵になったつもりはないんだけどなぁ?」
	久須那「わたしも迷夢を敵にした覚えはない。しかし、回答によっては敵になりうる」
43:	迷夢「そっか。じゃ、仕方がないよね? 久須那って強いから、ずっと味方でいて欲しかったん
44:	
	久須那「変わらないな」
	迷夢「ちぇっ、残念。けど、今に絶対に後悔するよ(クスリ)わたしはマリスとは違うんだから
47:	でも、久須那だから、教えてあげる。あたしはあたしたちの住む場所を守りたいだり
48:	その為に、この街が秘めた魔力をもらいたいの。そのためのフィールドよ、あれは」
	久須那「冥界に落とすつもりか?」 迷夢「ちょっと違う。いい? ここ数百年の度重なる天使の召喚のせいで、天使の住む世界とと
50:	こっちの境界面が崩壊しかけてるの。それを直すわ」
	久須那「マリスとは逆のことを言うんだな?」
	迷夢「うん♪ 繋げたっていいことはないよ。今、帰還魔法の研究が盛んだから、きっと、みん
54:	
55:	たら、召喚できるか判らないけど、しばらくは安泰するよ」
	久須那「迷夢の考えに異論はない。けど、シメオンの魔力を以外に方法はないのか」
57:	迷夢「じゃあ、精霊核でやってみる?」
58:	迷夢(独り言のように「けど、ダメだと思うんだよなぁ。精霊核は思考のエネルギーの結晶体だ
59:	から、純粋すぎるのね。一点集中型の魔法を使うにはいい媒体になると思うけど、広域に
60:	なるとちょっとねぇ」(久須那のセリフの一部と重なる
61:	久須那「それじゃあ、マリスと一緒になる。精霊核とシメオンを外してだな」
62:	迷夢「まあ、それは置いといて。ただの仮説なんだから。でも、他に方法がないかと言われても
63:	
64:	ん。シメオンの雑多な魔力を使うのが一番確実だと思うんだけどなぁ」
	久須那「しかし――天使の召喚がなければ境界面の崩壊はとまるんじゃ?」
66:	迷夢「憶測でものは言えないよ、これについてはね。でね。二つの世界の境界が壊れたらどうな
67:	るかと言うと、向こうの世界がぜ~んぶ雪崩れ込んで凄いことになっちゃうの」

368: 久須那「判らないことはないが……しかし」

369:	迷夢「街の人は逃がせばいいじゃん、ね?」あたしが欲しいのは都市の魔力だけよ。人気がなく
370:	なっても半日くらいなら現状を維持するから、術を使うのに間に合うよ。ね、久須那。た
371:	から、あたしと組もうよ。キミが組んでくれるなら、マリスと手を切ってもいい」
372:	久須那「わたしに何をさせたい?」
373:	迷夢「特になし♪」
374:	久須那「はぁ?」
375:	迷夢「あ~、あれね。後ろ盾が欲しいのよ、あたし。久須那ってリテール協会のお偉いさんたち
376:	に顔が利くし、天使兵団を指一本で動かせるから。いざって時に、助かるかなって思って
377:	ね」
378:	久須那「しかし、マリスも天使兵団の半数は持っていけるぞ」
379:	迷夢「それはマリスと手を組めってこと?」
380:	久須那「いや、迷夢の言うことが本当ならわたしは手を貸す。しかし、この街を犠牲にすること
381:	には賛成できない。そう――レルシアさまに相談してみたのか?」
382:	迷夢「言うつもりはないよ」
383:	久須那「何故? レルシアさまはきっと力になってくれる」
384:	迷夢「うん。レルシアはそうだろうね。だから、巻き込めない。あの人を関わらせたらダメ。そ
385:	うじゃないと、死んでしまうから。何か、そんな気がするんだよね。わたし、レルシ
386:	アみたいな人、好きなんだ。だから、ずっと生きてて欲しい。こんなコトに命をかける必
387:	要なんかないよ。うん? ど、したの、変な顔して」
388:	久須那「迷夢の口からそんな発言が聞けるとは思ってなくてね」
389:	迷夢「ホントよ、ホント。レルシアのことは本気だから。心配しなくていいからね」
390:	久須那「心配するとかしないとか、そう言うことじゃなくて」
391:	迷夢「大丈夫よ。味方は一人でも多い方がいいし、少数派よりも多数派の方が良かったんだけと
392:	最後まで実行できるように計画は立ててあるんだから。邪魔が入らなければ、の条件付き
393:	だけどね。まあ、そこら辺はどうでもいいんだ。でもね、久須那」
394:	
395:	SE:肩を叩く音。足音。
396:	
397:	迷夢「証拠は見せてあげられないけど、いずれキミはあたしが正しいことに気付く」
398:	
399:	
400:	□過去。いつもの喫茶店。
401:	SE:時計塔の鐘が五回ほど鳴る。
402:	SE:カラランランとドアの開く音。
403:	
404:	ゼフィ「こんにちは」
405:	女主人「いらっしゃいませ。あら? 今日はおちびちゃんは一緒じゃないんですか?」
406:	ゼフィ「おちびちゃんはお寝坊さんの真っ最中よ」
407:	女主人「精霊でもお寝坊するんですね」
408:	ゼフィ「昨日、迷夢と散々遊んだから、疲れたんだと思うけど次期、精霊王と言う方が、こ
409:	んな有様では示しが付かなくて、困るのですが。今日はおまけしておきました」
410:	女主人「おまけって、おちびちゃんは至福の時を過ごしているってことですか」
411:	ゼフィ「その通り!ところで」
412:	女主人「何ですか?(察して)なるほど、壊れ物は奥にしまってたほうがいいかしら」
413	ゼフィ「ありがとう。他に迷惑をかけていい場所を知らないから」

11.01.13 TBN08.rtf

458:

459:

460:

415:	のお相手は誰なんですか?」
416:	ゼフィ「迷夢か、マリスです。そろそろ、来るころだと思いますよ」
417:	
418:	SE:足音、カラランランとドアが開く。
419:	
420:	女主人「いらっしゃいませ。迷夢さん」
421:	迷夢「ねぇ、ゼフィ。わたしのことをあれこれと詮索するのはやめてくれないかしら? 久須那
422:	にはばれちゃうし、フィールドは上手くできないし、いいことなしなのよね、実際」
423:	ゼフィ「やはり、迷夢だったんですね」
424:	迷夢「みんなには気付かれないようにしてきたつもりだったけど、ゼフィには通じないのね?」
425:	ゼフィ「いいえ、今の今まで確証はありませんでした。マリスとあなたのどちらかと言うところ
426:	までは突き止めたのですが」
427:	迷夢「ほぉ~♪ そこまで判れば上出来じゃん。けど、マリスが何もしていないと思ったら大間
428:	違いよ。あの人だって自分のしたいことをしてる。まあ、あれよね? したいことは違う
429:	
430:	
431:	ゼフィ「人に追われる精霊たちの末路。しかし、それとあなたがやろうとしてることは関係
432:	ありませんよ?」
433:	迷夢「そおかしら? あたしの計算によると作戦決行の時にちょっと手を加えてやれば、精霊の
434:	世界も人と関わりを持たなく出来るの。精霊狩りなんて悲劇には遭いたくないでしょ?」
435:	ゼフィ「あいたくはないですね。しかし、精霊王さまは精霊のことばかりを考えていてはいけな
436:	
437:	
438:	迷夢「ふ〜ん。一理あるとは思うな。けど、これは誰の犠牲もなしに成立しうるのよ。あたしは
439:	マリスとは違う。そこんところ、忘れないでもらえるかしら?」
	ゼフィ「忘れていませんよ。そうでなかったら、シリアと遊ばせたりなんかしませんよ」
	迷夢「ほぉ~♪ 流石ね、ゼフィ。人を見る目があるわぁ」
	ゼフィ「それほどでも」
	迷夢「で、キミはどうしてあたしの目的を探るのかしら? ゼフィ」
	ゼフィ「は?」
	迷夢「あ~、もう、まどろっこしいなぁ。あたしがシメオンを冥界に落とすのだとして、マリス
446:	
447:	
448:	すれ違ったりもしない」 ゼフィ「そうですね、あえて、言うなら、全ての生あるものたちのために――」
	迷夢「ちぇっ。ゼフィはいつも格好良すぎなんだよね。ま、気取ってなくて、そゆことをフツー
451:	ゼフィ「ありがとう」
	迷夢「けどさ。判ってるんでしょう? マリスも自分の思いに忠実なだけだったこと。―――世
	小の間に出てのに作しのキロかし マケロかの L マナレ に L マスセ ピエレ レズ L
454:	
455:	ゼフィ「悪意はないと」
456: 457:	
45/:	心が めるかないしゃん。たかひこめめ! 人次がにもヨフたりこ、めたしは誰かに俄仕になり

414: 女主人「かけてもらったら困るんですが、ゼフィのお願いだったら、断れませんよ。……で、そ

て欲しいのでもなんでもないのよ。この街の魔力さえだけもらえたら、それで十分。あた

しはマリスとは違うのよ? だから、久須那とゼフィがいてくれたら、色々と楽になると

思うんだよね? ねぇ、手伝ってよ?」

506:

404	ゼフィ「千仁ったこウかったしだけどか
	ゼフィ「手伝えたら良かったんだけどね」
462:	迷夢「そっか、ゼフィはそう言うと思ってた。けど、残念だな。久須那もゼフィも仲間になってくれない。まあ、久須那は立場上、ああ言うしかないよねぇ」
463:	ゼフィ「?」
	迷夢「仲間にはならなかったけど、やらせてくれるって事よ。判らないかなぁ。この場合、マリ
	を
466:	スは他別的な恋なのよ。
467:	ゼフィ「つまり、協会の注目をそっちに集めてしまうと」
	迷夢「ふふぅ、ご明察♪ あたしへのマークが手薄になるわ。どっちにしても、協会は敵になっ
	ちゃうからこの方が良かったのかなぁって。少し淋しいけど。ね、だから、ゼフィ、
470: 471:	手伝ってより
	ゼフィ「いいえ」
	迷夢「はぁ~ん、決意は固いのね。壊れちゃったら、全ての生あるもののためも何もなくなっ
	ちゃうんだけど。時間はちょっとだけ残ってるから考えてみてね。——! あ、あと
474:	今日の約束忘れないでよ。あたし、先に行って待ってるから、このままどっかに遊びに
475:	行っちゃうってのはなしよ、ゼフィ。あ、それから、もちろん、シリアくんも一緒。最後
476: 477:	はみんな一緒なんだから、すっぽかしたら、ダメだよ、絶対に」
	はないのないにはらい、するはないのにも、クタルとも、同じとは
478:	□過去・ゼフィの家の前。
480:	SE:足音。
481:	GE · Æ El
	迷夢「すっぽかさないでっていったのになぁ」
	シリア「。ねぇ、ゼフィ。迷夢がうちの前で何かやってるよ」
	ゼフィ「そうですね」
	迷夢「あっ! ゼフィ、シリアくん、こっちこっち。早く、家に入って」
486:	> U → [+/\++/*/\\\\ + → → →
487:	
488:	SE:家に入るような何か。
489:	
	ゼフィ「大きなキャンバスですね」
491:	シリア「うわぁ大きいねぇ」
492:	迷夢「久須那、マリス。ねぇ、ゼフィが帰ってきたから、そろそろ始めようよ。テーブルのとこ
493:	ろの椅子もってレイヴンとは反対側の壁際に行って」
494:	
495:	SE:椅子をガタガタ
496:	
497:	久須那・マリス「オーケー」
498:	迷夢「ありがと。でぇ、どうしようかな」
499:	マリス「わたしは後ろでいいぞ。レイヴン。お前も後ろにしておけ。だから、迷夢、久須那
500:	ゼフィで並んだらいい。シリアくんは誰かの膝の上に乗せてもらえ」
501:	迷夢「そうしようか。うん、そうする♪ じゃ、シリアくんはこっちね」
502:	シリア「迷夢の膝の上に乗るってこと?」
503:	迷夢「ね、いいでしょ、ゼフィ」
504:	ゼフィ「わたしはいいけど」
505:	シリア「うん。ねぇ、振り回さないでしょ? いっつもそう言うのに全然聞いてくれないん
506:	だもの」

11.01.13 TBN08.rtf

	迷夢「今日は大丈夫だよ。もう、そんなことしないから。最後、だからね」
	シリア「最後?」
	迷夢「ううん、何でもないよ」
	シリア「おかしな迷夢。いっつもおかしいけど、今日はもっと変っ」
511:	迷夢「何ですって、シリア!」
512:	
	SE: ゲンコツでぐりぐり。
514:	
	シリア「痛いっ。痛いってば、迷夢! もぉ、だから、迷夢の近くはイヤなんだよぉ」
	レイヴン「なあ、みんなの場所はそこでいいのかい? よかったら始めるぜ?もう、始め
	てるけどさ。とりあえず、デッサンが終わるまで大人しくしていろよ。特に迷夢っ!」
	迷夢「どうして、わたしだけなのよ」
	レイヴン「それは十分もしたら判るだろ?」
520:	
	SE:時計がコチコチ。
	SE:サラサラ、筆を走らせる音。
523:	
	マリス「そろそろ、時間になるが、どうなると思う?」
	久須那「恐らく、無理だろうな」
	迷夢「ねぇ、レイヴン、まだぁ?」
	レイヴン「一朝一夕には描けないよ。デッサンが終わるまで大人しくしてろって言っただろ」
	迷夢「え~っ。じっとしてるのって一番苦手なんだよねぇ」
	レイヴン「そもそも、迷夢が言い出しっぺだろ? 我慢、我慢」
	迷夢「もっと、こう、ちゃちゃっと終わるやつないのぉ?」
	レイヴン「ないのっ!」
	迷夢「そお?。もしかして、抽象画を描いてるとか言わないでしょうね? これだけみん
	なを待たせてるんだから、写実的にお願いよ? 抽象画なんて意味ないんだから」
	レイヴン「何を言ってるんだ?少しくらい動いてもいいから、黙っててくれ。気が昔
	る」 迷夢「う〜ん。それはちょっと無理」
	レイヴン「何でっ!」
	迷夢「だってさぁ、わたしってきっと口から先に喋りながら生まれてきたのよ。何て言うか、ま
539:	レイヴン「じゃあ、せめて、矛先を他に向けてくれ」
	迷夢「う~ん、今はレイヴンが旬なのよねぇ、あたし的に」
	レイヴン「もうどうにでも好きにしる」
	迷夢「はは _あ ~ん♪ ありがと、レイヴン。じゃ、そゆことで」
544:	//時間の経過、
	・みんな、寝静まって夜になる。
547:	
548:	シリア「レイヴン、まだ、起きてるの?」
	シック・レイソン、また、辿さてるの?」 レイヴン「シリア?」
	シリア「だって、後は色を塗っていくだけなんでしょう? 慌てなくたって」
	ンリア「たって、後は巴を塗っていくだけなんでしょう? 慌てなくだって」 レイヴン「時間はないんだよ。シリアには判らないかな」
552:	レーフン「呵問はない心によ。クソチには刊りないかな」

- 11.01.13 TBN08.rtf 553: シリア「どういう事?」 554 レイヴン「大人の事情ってやつさ」 555 シリア「大人の事情? 何か都合が悪くなったら、すぐそれだ。大人ってずるいよ」 556 レイヴン「けど、シリア。すぐに判るよ。もし、これが夢ならずっと醒めない方がいい。もし醒 めるにしても……少しでも長い間、夢を見ていたいだろう?」 558: シリア「今日のみんな、変だよ? 最後だとか、夢だとかって」 559: レイヴン「まあ、そう映るかもしれないな。さあ、もうお休みよ。明日の朝、キミが起きたら出 来ているはずだから、楽しみにしててご覧よ」 561: シリア「うん、もう、寝るぅ。また、お寝坊したらゼフィに締めあげられそうだし。お休み、レ イヴン」 563 レイヴン「お休み、シリア……。——君とはずっと友達でいたかったよ……」 SE:足音。 565: 566: 567: □現代に戻って、バッシュの家。 SE: やはり、時計がコチコチ、時間の経過。 569: 570: セレス「何か、あれだよね。リボンちゃんの話を聞いてるとしんみりしちゃってさ。やるせな いって言うか、淋しいって言うか。これからどっかに一戦ぶちかましに行こうか!って 571: 気分じゃないよね。士気、下がりまくりだわさ。迷夢にしても、マリスにしても何だかん 572
- だ言いつつ、友達思いのいいやつじゃない? それがどうして、敵になっちゃうワケさ?」 574: シリア「どうして、だろうな。しかし、まあ、慌てるな。残りの伝説はこれからが本番だ」 575 デュレ「それはリボンちゃんの話を聞いたら、理由がわかるととらえてもいいんですね?」 576: シリア「それもどうだろうな。……ただ、今は最後まで聞いていろ。ふふ、しかし、思い出す なぁ。こうしてみんなで集まっていると、まるであの日のようだよ。よく覚えているんだ。 577: この辺だったかなぁ。オレは迷夢の膝の上にいて、ゼフィはその左隣だったかなぁ。とす 578 ると、久須那は迷夢の右隣で、マリスはその左斜め後ろ、レイヴンは~確かマリスの隣に 579: 自分の姿を描いていたな」
- 581: セレス「その絵はどこにあるの? 大きなキャンバスに描いたなら、残っててもいいよね?」 582 シリア「……残ってるよ。見たことがあるはずだ。お前たちもついこの間見てきたばかり……」 583 セレス「え? ううん。見てないから。だって、ゼフィ、迷夢、リボンちゃんでしょ。マリスに、 レイヴン。久須那。……久須那? 少なくともあたしらが通ってきた道筋にはないんでな い?」
- 586: デュレ「……そのキャンバスの大きさは人の背丈よりも大きいんですよね?」 587: シリア「そうだよ」
- 588: デュレ「だったら、一つだけ心当たりがあります。……例えば、それが油絵なら、その上に何度 でも塗り重ねて絵を書きかえることが出来る。もっとも、それでもオリジナルの余韻が残 るはずなんですが……。真っ新なキャンバスに描くのとやっぱり一度描いたものの上とは 違うみたいですし」
- 592 セレス「なぁに? デュレは久須那の封印の絵がそれだって言いたいの?」
- 593: デュレ「う~ん。その後の混乱で消失してしまったとも考えられるけど、一番、ありそうかなっ
- 595: セレス「だって、千五百年も無事に存在してるキャンバスなんてあるはずないもん。あれはリボ ンちゃんとシェイラルさんの魔力がかかってるからあんなに保存状態がいいんでしょ? 596: って、あれ? 魔力が保護する?」。
- 598 デュレ「元の絵の上に魔力で他の絵が描かれてるなら、下の絵は綺麗に保存されると思いました。

:00	でしょう?」
01:	セレス「うなぁ」
02:	シリア「デュレの言うとおり、封印の絵がそれなんだよ。表に見えてる久須那の絵はオレと
03:	シェイラルの魔力で描かれた、いわば紛い物なのさ」
04:	セレス「けど、本物みたいに見えたよ?」
05:	シリア「それが魔法だろ? 何かを封じたことを簡単に見破られたら困る」
06:	デュレ「じゃあ、いいですか? 久須那の封印を解いたら、元の絵が見えるようになるんです
07:	か?」
:80	シリア「ああ、そうだよ」
09:	セレス「もう一ついいかな?。じゃあ、聞きます リボンちゃんはその"絵"のような関係を取
10:	り戻したいんですか。それともどうでもいいんですか?」
11:	シリア「どっちでもいいよ」
12:	デュレ「――わたしにはそうは思えません」
13:	セレス「だよね? デュレ。ホントにそう思ってたら、こんな話をする訳ないもん」
14:	デュレ「決めました。リボンちゃんの話を全部聞いたら、気が変わるかもしれません。でも
15:	わたしは、わたしたちが取るべき道筋は」
16:	
17:	・以降の、セレスとデュレのセリフは重なる
18:	
10.	デュル「あなたの友達を取り戻すこと」

戦何百年も経って、それでも残ってるとリボンちゃんが言うのなら、それくらいしかない

620 セレス「キミの友達を取り戻すこと」